

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院・	実施機関名・連携機関名 熊本大学教職大学院 連携：熊本大学教育学部情報教育研究会 D-project
教育委員会等	事業名： NITS・熊本大学教職大学院コラボ研修 熊本大学教職大学院情報教育研修会
コラボ研修プログラム	研修等名： 年間テーマ 子供たちの可能性を引き出す「令和の日本型教育」の実現 ～教育観をアップデートする、「校内研修変革」と「クリエイティブな学び」の追求～
支援事業報告書	開催日時：令和6年6月～令和7年2月 開催場所：遠隔YouTube配信 対面 熊本大学（熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号） 参加人数と参加者の属性：学校関係者・教育関係者・教職大学院関係者他（県外含） 参加人数 6月遠隔217人 対面28人 7月対面31人 8月対面44人 9月対面31人 10月遠隔169人 11月遠隔377人 12月遠隔465人 1月遠隔463人 2月遠隔336人

目的：

本研究会の今年度の活動は、子供たちの可能性を引き出すための「クリエイティブな学び」に焦点を当て、個別最適な学びと協働的な学びについて考えるとともに、その実現を促す「校内研修」の在り方を捉え直し、令和の日本型教育の実現を目指す。変化が激しい社会で必須とされる「クリエイティブな学び」は、体験、経験、試行錯誤を通して実現し、学校の授業であれば、協働学習での情報の編集、表現、制作といった形で組み入れることができる。「GIGA スクール構想」において整備された学習者 1 人 1 台タブレット端末を、どのように活用し、授業設計をしていけばよいのかを構想するとともに、各学校で実現するために不可欠な「校内研修」の在り方を体験的に捉え直すことを促す。児童生徒等の学びと教員等の学びは相似形となることが重要であり、個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて、これから求められる学びを実現することは、児童生徒等の学びのみならず、教員等の学びにも求められており、児童生徒等の学びのロールモデルとなることを、研修に参画し、体験を通して目指す。さらに、本研修を将来の研修プログラムに繋げることを目的とする。

内容：

- 6月29日(土)「個別最適な学び」を学ぶ～加賀市教育推進プロジェクトマネージャー佐々木潤氏の講演とワークショップ～ 講師による理論のレクチャーと実際に体験することにより、今求められる個別最適な学びについて深めた。
- 7月13日(土) iPadとクリエイティブな学び～Everyone Can Create～ 子どもたちの可能性を伸ばすクリエイティブな学びを実現する授業について、熊本市教育センター指導主事の山下若菜氏と、熊本市教育委員会指導主事の井手尾美樹氏を招き、特別支援教育の視点も踏まえた授業のアイデアを共有した。
- 8月10日(土) 今さら聞けない「生成 AI」超入門～はじめてみよう Chat GPTとCanva～ 元熊本市教育センター指導主事の山口修一氏による生成 AI の実技講習を実施した上で、授業において生成 AI をどう活用するかをグループ議論し、全体で共有を行った。
- 9月21日(土) 授業での【iPad アプリ】活用入門～国語科の単元から考える iMovie, Pages, Keynote～ 山口修一氏（元熊本市教育センター）、西尾環氏（熊本市立本荘小）、渡辺猛氏（熊本市立北部東小）から3つのアプリの活用を学ぶ。多くの実践例が紹介され、授業での iPad アプリ活用のイメージを広げた。
- 10月12日(土) 国語科教育と ICT ～iPad を生かして「創る」授業実践から学ぶ～ 県外の小学校教諭の中里優子氏、寺島麻衣氏、井上光子氏による、ICT を活用した国語科における実践交流を行う。実践発表に対する質問や意見を交流し、国語科の ICT の活用について考えを深めた。
- 11月30日(土)「自由進度学習」～「学び方を学ぶ授業」を学ぶ～ 自由進度学習の実践者である札幌市立新川中央小の難波駿氏を招き、具体的な授業像をつかむ。参加者とディスカッションを交え、子どもたちが主体的に学ぶ授業について掘り下げた。
- 12月7日(土)「自己調整学習」～「人は学び方をどのように学ぶのか」～ 九州大学の伊藤崇達氏を招き、学習を調整するとはどのようなことなのか、実現に必要なこと何なのかなど、自己調整学習の理論を学んだ。
- 1月11日(土)「家庭学習」～授業とどのように連動させるか～ 学習院大学の篠ヶ谷圭太氏を招き、従来通りの家庭学習を脱却する効果的な家庭学習について考えることにより、家庭学習と授業の連動のさせ方について学んだ。
- 2月15日(土) NEXT GIGA の学校をイメージする～世田谷区立駒繫小学校の実践から学ぶ～ 東京都世田谷区立駒繫小の井上光子氏、松尾有里氏、増浪賢志郎氏、宮野由季氏を招き、子どもたちによる主体的な学びを推進し創造的な学習活動が特長である実践について学び、今後の GIGA スクール構想の展開を考えた。

成果： アンケート結果から

- ・熊本市を中心に、全国の先進的な取り組みを知ることができ、すぐに取り組んでみたいと思うものが多い。今年は、特に「自由進度学習」に関する学びが大きかった。
- ・実践を知るだけでなく、スキル研修もあり、新たなタブレットの活用について学ぶことができる。chatGTP の基礎となる研修はとてもよかった。気軽に質問をすることができるところもすばらしい。
- ・必ずグループで話し合う場が設定した。その中で質問をしたり、互いの感想を交流したりできるため、学びを確かなものにすることができる。さらに、グループで出された話題を共有することからも多くのことを学ぶことができる。
- ・熊本県外からの参加が容易にできる。オンラインを活かし、熊本の先進的な取り組みを学ぶことができる。
- ・これから何をを目指すのかを知ることができる。日常の取り組みを振り返ることにより、自分の取り組みに自信を持ったり、さらなる取り組みを見出したりすることができる。

「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

今回講演をいただいた各月の講師は、「令和の日本型教育」の実現に向けて、これまでの慣習等にこだわらず、先進的かつ着実な取組をされている方ばかりであり、多くの人から共感を得ている。「令和の日本型教育」の実現に向けた具体的な講話内容はたいへん魅力あるものである。ただし、一方的な発信に終わらず、参加者の意見や質問に対して、対談などの形で行うほど工夫した。このようにして、より深い理解を促し、自ら問いを立て、実践の振り返りや対話、知識の習得を重ね、価値観を問い直し、具体的な実践を促すことを目指した。このことは、NITS からの提案（第一次）と重なる。わかりやすさ、取り組みやすさを重視し、今後の具体的実践につながるセミナーの効果は、とても大きいと考える。「研修を通じて、参加者にどのような気付きや変化があるか」という参加者の具体的な学びの姿を大切にされた著名な講師により、本セミナーが参加者のニーズに応え、セミナー後の具体的行動を促すことにつながったと考える。

アイデアや工夫したこと：



- ・参加者のニーズに応じるテーマの設定を行い、参加者の満足度を高めることを心掛けた。
- ・広報については、市内の全小中学校へのチラシの配布、SNS 等での全国への呼びかけを充実した。県外からの参加者、継続しての参加者も多くみられた。また、興味を高めるチラシの制作を行った。
- ・より多くの参加者にとって意義ある内容になるように、オンラインによる研修の利点を活かして県外の先進的な取り組みを行っている方に講演を依頼したり、小学校と中学校の実践の報告を入れたりして計画した。



- ・ブレイクアウトルームで、少人数によるグループ協議を行うとともに、出された意見をホワイトボードで集約し、その意見も取り入れながら会を進めた。
- ・講師の選定において、最新の情報を提供するとともに、分かりやすい話題提供ができる方に依頼した。できるだけ、一方通行の講話になることを避け、対話形式や参加者の質問に応える双方向性となるようにした。

- ・4 回の対面式のセミナーを実施した。グループをつくり、プロジェクト型のセミナーにすることで、互いに協力して制作を行った。児童生徒と同様の体験をすることにより、授業づくりの参考にもなるようにした。グループのなかでは交流も深まり、親睦を重ねることで、参加の満足度を高めることとなった。
- ・多くの方が参加しやすいように、オンラインのセミナーとした。よい映像、よい音響で配信できるように、大学の技術職員に協力いただいた。オンラインを配信するスタジオを使用し、恵まれた環境の中で配信することができた。県外からも参加することが可能となり、応募上限の 500 人を超える会が 3 回もあった。400 人を超える非常に高い参加率となった。
- ・来年度以降も、本セミナーの継続を予定する。新学習指導要領策定の動向も探りながら、GIGA スクール構想を盛りあげていきたい。

「自己調整学習」

～「人は学び方をどのように学ぶのか」～

日時：2024年12月7日（土）9時30分～11時30分

場所：Zoomによるオンライン 定員：100人（事前登録制）

主催：熊本大学教職大学院 共催：熊本大学教育学部情報教育研究会+D-project（デジタル表現研究会）

参加費：無料 申し込み締め切り：12月5日（木）（演員になり次第申込を終了します）

令和3年に出版された中央教育審議会審議には「子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる。」と書かれてあります。

さて「学習を調整する」とは、一体どういうことなのでしょう。子どもに任せれば、子どもは自己調整しながら学んでいくものなのでしょうか。

そこで今回は、教育心理学者の研究者である伊藤道雄先生（九州大学）をお招きして、自己調整学習の理論について学んでいきます。熊本大学の田辺康祐特任教授が聞き手となります。学習用語を解きほぐしていく予定です。オンラインですので、お気軽にお申し込みください。

